

「変身物語」の名作

「実践①…構成と展開を工夫して、変身物語を書こう」

参考資料

「変身物語」には、例えば次のような作品があります。創作の参考にしてみましょう。

・『変身』カフカ（1915年）

ある朝目覚めると、巨大な虫に変身していたグレゴール・ザムザの物語。変身してしまったザムザをめぐる、両親や妹の生活や考えも変化していく。

新潮文庫（高橋義孝訳）、角川文庫（中井正文訳）、岩波文庫（山下肇・山下萬理訳）、光文社古典新訳文庫（丘沢静也訳）、白水 u ブックス（池内紀訳）などに収録。



・『秘密』谷崎潤一郎（1911年）

女性の着物を着て、女性の化粧をする喜びを知ってしまった「私」。自分のものではない誰かになる快感や怪しさを濃密な筆致で描く。

新潮文庫、角川文庫などに収録。



・『ジキルとハイド』ロバート・L. スティーヴンソン（1886年）

弁護士のガブリエル・ジョン・アターソンは、あるとき、友人ジキルの周囲に、不気味な人物が見え隠れすることに気づく。あの人物はいったい誰なのか…。

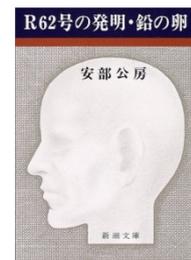
角川文庫（田内志文訳）、新潮文庫（田口俊樹訳）、岩波文庫（海保真夫訳）、光文社古典新訳文庫（村上博基訳）などに収録。



・『棒』安部公房（1955年）

デパートの屋上から落下して、「棒」になってしまった男。その「棒」をひろった不思議な三人組は一体なにものなのか？

新潮文庫「R62号の発明・鉛の卵」などに収録。戯曲化した「棒になった男」という作品もある。



・「胡蝶之夢」 荘子

うとうととしていると、「蝶」になっていた……。古代中国の思想家、荘子が「蝶」に変身して気づいたこととは。

角川ソフィア文庫、中公クラシックス、講談社学術文庫、岩波文庫、ちくま学芸文庫などに収録。



・『おれがあいつであいつがおれで』 山中恒 (1979年)

階段から転げ落ちた「おれ」こと斉藤一夫と、「あいつ」こと転校生の斎藤一美。きづけば二人の体は入れ替わっていて……。

現在、角川つばさ文庫などに収録。



・『美女と野獣』 ポーモン夫人 (1756年)

バラを摘んだ罪として、娘を野獣に差し出すこととなった商人。さて、この野獣の正体は？

ディズニー映画にもなった寓話。新潮文庫などに収録。

魔法で異類に変身させられた寓話はほかにも、グリム童話「カエルの王さま」、バレエ「白鳥の湖」、アンデルセン「白鳥の王子（野の白鳥）」など数多くある。

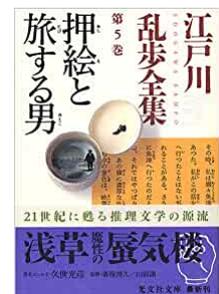


・『押絵と旅する男』 江戸川乱歩 (1929年)

ある日、私は、旅をする汽車のなかで、不思議な押絵を抱いて旅する男に出会う。この押絵は男の兄が変身したものだという。

人間が、動物ではなく「物」に変身する物語も、変身物語の一種だ。

光文社文庫、新潮文庫（『江戸川乱歩名作選』）、岩波文庫（『江戸川乱歩短編集』）、ちくま文庫（『江戸川乱歩 ちくま日本文学7』）などに収録。



・『件』 内田百閒 (1922年)

気づけば「件（くだん）」という生き物になっていた。周囲はたくさんの人に取り囲まれていて……。架空の生き物に変身してしまう、夢のような物語。

『小川洋子と読む内田百閒アンソロジー』（ちくま文庫）、『内田百閒（ちくま日本文学1）』（ちくま文庫）、『冥途——内田百閒集成（3）』（ちくま文庫）、『冥途・旅順入城式』（岩波文庫）などに収録。



